保育園の自己評価

令和７年度　　本千葉エンゼルホーム保育園

	自己評価の観点	自己評価の視点	評価
Ⅰ 保育理念	**子どもの最善の利益の考慮** ① 子どもの人権の尊重	○子ども一人ひとりの違いや思いを受け止め、自ら育つ権利を平等に尊重しているか。	・人権についてのディスカッションを行い、男女の差別などをしない、一人の人として尊重することを共有することができた。
	② 保育方針・保育目標	○保育方針を基本に、保育所の地域性や、家庭状況などの実態を踏まえ、明日を生きる力と豊かな人間性の基礎を培う目標になっているか。	・４月の会議で全職員に保育方針や保育目標を確認し、各クラスで月案や個人案を立てることができた。
Ⅱ 子どもの発達援助	**１ 子どもの福祉を推進することに最もふさわしい生活の場** ① 健康・安全で心地よい生活	○子どもの生活リズムを大切にし、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整えているか。	・新入園児は、園生活に慣れるように進級した子どもについても新しいクラスの環境に慣れるよう少しずつ担任とコミュニケーションを図りながら環境を整えることができた。
	② 子どもの主体的な生活	○子どもが自発的、意欲的に関われるような環境を構成し、主体的な生活ができる場になっているか。	・各クラス子どもが自分から取り組められるような環境構成をし、主体的に行うことができた。
	③ 人との関わりを育む環境	○子どもは大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることにより、情緒が安定するとともに、人への信頼感、自己肯定感が育つ。そのための環境を整えているか。	・全職員が受け持ちのクラスの子どもだけではなく、全園児の様子を見ることで子どもたちの情緒が安定している。 ・月齢が高い子どもは活動場所の変更を行い、流動的に過ごすことができた。
	２ 生活と発達の連続性 ① 子ども観・発達観の理解と共有	○めざす子ども像及び発達観を理解し、共有しているか。	・毎月発達記録を作成し、職員同士で共有している。
	② 発達過程に応じた保育	○子どもの発達や特性を理解し、発達過程に応じた生活の連続性に配慮した保育をしているか。	・発達記録や日々の子どもの発達に合わせて個人案を作成し保育を行うことができた。

Ⅱ 子 ど も の 発 達 援 助	③ 個人差への配慮	○子どもの発達の特性とその道筋を十分理解し、一人ひとりに応じ、見通しを持った保育をしているか。	・毎日の保育の振り返りを行い、翌日の保育につなげることができた。
	④ 生活の連続性	○保育時間などの違いに配慮するとともに、家庭との連携を視野にいれた保育をしているか。	・保育時間が長い子どもに関して、保護者に可能な時は早めの迎えをご協力頂き配慮している。また、延長保育時は異年齢で過ごし安心した保育を行うことができた。
	3 養護と教育の一体的展開		
	① 主に乳児保育における養護と教育の一体的展開	○保育士等が子どもを一個の主体として尊重し、その命を守り、情緒の安定を図りつつ乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられていくように援助しているか。	・乳児クラスは担任とフリーでクラスに入る職員を固定化することで情緒の安定を図ることができた。
		○一人ひとりの発育及び発達状態や健康状態について適切な判断に基づく保健的な対応をしているか。	・登園時の視診及び保育中の怪我や体調の変化（熱や嘔吐）の処置や対応を行うことができた。引き続き保育中のこまめな視診を行いながら対応していく。
	②主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開	○一人ひとりの生育歴に留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育士が応答的に関わっているか。	・子ども一人ひとりの発達や成長に合わせて担任が関わることができた。
		○3つの視点をもとに養護・教育の一体性を意識して保育をしているか。	・月案をもとに計画を立て保育を行うことができた。
		○探索活動が十分できるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びをとりいれているか。	・戸外では公園に行き、遊具で遊んだり、走ることを楽しんでいた。また、どんぐりや落ち葉などの自然にも積極的に触れることができた。
	③主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開 ④保育の実施に関して留意	○自我の発達を促し自己主張を受け止め、子どもの気持ちに沿った保育をしているか。 ○子どもの情緒が安定し、自己を十分に発揮した活動を通して、やり遂げる喜びや自信を持つことができるように配慮しているか。	・一人ひとりの発達や心の情緒を観察しながら保育計画を立てたり、モンテソーリ活動を行っている。 ・月案や週案を通して保育の振り返りを行いながら子どもたちのやりた

	すべき事項	○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識して保育しているか。 ○保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るように努めているか。	い物の環境設定を行うことができた。 ・年長児に関しては、５領域及び10の姿を月案に取り入れている。また、小学校とは訪問日が合わず見学の機会等を設けることができなかった。
	4　環境を通して行う保育 ①　保育の環境 ・人的環境	○子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境が整っているか。	・幼児クラスは異年齢保育のため、様々な年齢の子どもと関わり、大人に対しても園内外問わず接することができた。
	・物的環境	○子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保などに努めているか。	・玩具や教具を都度消毒し、感染症対策を行う事ができた。また、園内チェックを通し毎日設備等の確認・修繕をすることができた。
	・空間	○保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮しているか。	・各年齢ごとに環境を整え、休息の場や一人の空間（テント）を設けることができた。
	・自然や社会事象等	○命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うことができているか。	・亀や熱帯魚を飼育したり、プランターに野菜を植えて生長の過程を観察することができた。
	②環境の構成・再構成	○人、物、場等の環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう計画的に構成し実践、評価した上で、再構成した環境の中で保育をしているか。 ○子どもの気づき、発想や工夫を大切にしながら、子どもとともに環境の再構成をしているか。	・各クラスで死角がないか、危険な箇所がないかを定期的に話合い、安心安全な環境を整えることができた。 ・子どもの気づき、発想を大切にしながら新しい物を取り入れたりすることができた。
Ⅲ子育て支援	1　家庭との緊密な連携 ①　子どもの成長の喜びを共有	○一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個人面談等を行っているか。	・年に１回以上個人面談を行っている。また、相談がある保護者に関しては、随時面談の場を設けることができた。
	②　保育内容の説明･応答責任	○保護者に対し、保育所における子どもの様子や日々の保育の意図などを説明し保護者との相互理解を図るよう努めているか。	・０～２歳児までは毎日の連絡帳で園での様子を配信し、幼児クラスも月１回園での様子を配信している。また降園時にも口頭で様子を伝えたり、家庭での様子を伺い共有することができた。
	③　子育てに関する相談援助	○保護者の考えや提案を積極的に聞き、適切と思われるものについては、保育に取り込むように努めているか。	・保護者参加の行事後にアンケートを取り、意見を聞き取り入れるようにした。

Ⅲ子育て支援	④　保護者への個別支援	○保護者の気持ちを受け止め、相談・援助にあたっては相互の信頼関係を基本に各家庭の実態を踏まえ、保護者自身の主体性、自己決定を尊重しているか。	・連絡帳の相談の欄に記入されている保護者に対して降園時口頭で話すようにしアドバイス等を行った。
		○保護者と子どもの状況(障害、発達上の課題、外国籍等を含む)を踏まえ、組織として子どもや家族を援助する体制づくりを行っているか。	・外国籍の保護者に関して、連絡帳での園の様子はひらがなで入力している。また、園からのお知らせは漢字で配信しているが、個別に口頭でも伝えた。
		○保護者に育児不安などが見られる場合には、子どもの最善の利益を重視した個別の支援を行うよう努めているか。	・育児不安や新入園児の保護者に対しては、不安な気持ちに寄り添いながら丁寧な対応を心掛けた。
	2　地域における子育て支援		
	①　保育所機能の開放	○子育て家庭への施設及び設備の開放、体験保育など保育所機能の開放をしているか。	・園見学で園の様子を見て頂いた。また、入園希望者向けに対して、体験保育を年２回実施していたが、参加者が少なかった。次年度も引き続きSNS等を使って発信していく。
		○育児相談や交流の場の提供など、地域の子育て家庭の支援を行っているか。	
	②　関係機関との連携	○地域の関係機関、団体等との積極的な連携及び協働し、子育て支援に関わる地域の人材の積極的な活用を図るよう努めているか。	・保育参観後に育児講座や懇談会の場を設け年齢を越えて交流を行った。 ・自治会の方との交流会や保育専門学校と提携し実習生やボランティアを受入れた。
	③　情報提供	○地域における保育に関する情報を常に把握し、子育て支援に関する情報を保護者に適切に提供しているか。	・千葉市からのお知らせの周知や園での感染症の通知を保護者に配信した。
Ⅳ保育を支える組織的基盤	**1　健康及び安全の実施体制**		
	①　健康の保持及び増進	○子どもの健康に関する保健計画を作成し、全職員がそのねらいや内容を明確にしながら一人ひとりの健康保持及び増進に努めているか。	・毎年保健計画を作成し、周知している。また、登園時の視診の徹底を行った。
		○登降所時や保育中の子どもの健康管理はマニュアルがあり、子ども一人ひとりの健康状態並びに発育、発達状態を把握し、健康管理を実施しているか。	・危機管理マニュアルや嘔吐処理マニュアルを参考にしながら適切に行った。
		○入所児童の健康診断の結果について保護者や職員に周知すると共に日々の保育に反映させているか。	・年２回嘱託医が来園し園児健診及び歯科検診を行いその結果を当日保護者に周知した。
		○感染症の予防に努め、必要に応じてその情報や対策を保護者に知らせているか。	・保育後に消毒を行い、感染症が流行した際は、保護者に一斉配信を行った。
		○アレルギー疾患を持つ子どもの状況に応じて適切な対応を行っているか。	・アレルギーの子どもに関しては、千葉市のマニュアル等に則って食べる場所や食器を替

			えて対応した。
		○疾病の疑いや障害、不適切な養育などが疑われる場合、保護者や嘱託医などの関係機関と連携し、適切な対応をしているか。	・発達が気になる子どもに関しては、千葉市の巡回員に相談をしている。また、児童相談所から連絡があった場合は情報を提供した。
	② 安全・衛生管理	○施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備及び用具などの衛生管理に努めているか。	・その日の気温や湿度に合わせて部屋の温度も変更している。また、午睡時など適宜に換気も行った。
		○衛生面や安全性に配慮し、給食をしているか。	・活動後や給食・おやつ前など手洗いを徹底し食事をした。
		○子ども及び職員の衛生管理を適切に実施しているか。	・手洗いや消毒、爪が長い子どもや職員は爪切りをお願いしている。また、職員は月１回検便（調理の職員はノロウイルスの検便も）を実施し、年１回健康診断も受診した。
Ⅳ保育を支える組織的基盤		○事故発生に備え、施設内外の危険個所の点検や訓練を実施し、安全対策のための体制が周知、徹底されているか。	・毎日園内チェックを行い、危険箇所を点検している。また、各クラスで事故シュミレーションを実施し、怪我の処置の仕方を周知した。
	③ 災害への備え	○定期的に防災設備、避難経路の点検を行い、安全環境の整備に努めているか。	・月１回避難訓練を実施し、避難経路や避難具の点検を行った。
		○災害発生時に子どもの引き渡しを円滑に行なうため、日頃から保護者と連絡体制や引き渡し方法等について確認しているか。	・年１回実際の避難場所での引き渡し訓練の実施、災害伝言ダイヤルの体験を行っている。また、重要事項説明書にも避難場所や連絡方法を記載し、保護者に周知した。
	④ 家庭や保健・医療機関との連携	○地域の関係機関と日常的に連携を図り、必要な協力が得られるよう努めているか。	・小児科と歯科の嘱託医と連携し、怪我が発生した場合処置をお願いした。
		○健康で安全な子どもの生活を確立するために保護者と常に密接な連携を図り、家庭での子どもの生活実態把握など情報収集しているか。	・入園進級時に健康記録票に予防接種や健診の日付を記入してもらっている。また、家庭での様子も連絡帳や登園の受入れ時に保護者から聞き共有できた。
	④ 食育の推進	○子どもの健康と安全、食生活や食育に関する活動については保育所から家庭に情報提供をしているか。	・月１回各クラス年齢に合わせた食育を行っている。また、人気の給食のレシピを園だよりと共に配信した。
		○保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成であることを全職員が理解して進めているか。	・食育だよりを各クラスに掲示し周知していた。

		○食育計画に基づき保育の実践・評価を行い、改善を図っているか。	・栄養士が計画した食育計画をもとに食育を行っている。幼児クラスは野菜を育てたりクッキングも取り入れることができた。
Ⅳ保育を支える組織的基盤	2　職員の資質向上 ①　保育の計画	○０歳から６歳まで一貫性を持った保育課程を作成しているか。 ○保育の計画が保育の基本方針に基づいているか。 ○指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を見直しているか。	・園の全体計画、各クラス年間計画を作成した。 ・全体計画の基本方針に基づいて各クラス計画を立てた。 ・月案は毎月振り返り翌月の計画を立てている。週日案も毎日振り返り翌日の計画を立てることができた。
	②　保育士等の自己評価	○保育士等は自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めているか。 ○保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、定期的に保育所の自己評価を行い、改善を図っているか。	・評価は会社独自の評価シートに自己評価を記入し、年２回園長・主任と面談を行い向上に努めた。
	③　保育所の自己評価 ④　研修	○学び合う環境を醸成していくことにより、保育所の活性化を図っているか。 ○研修の成果を日常の保育に活かし、乳幼児の育ちに反映させているか。 ○全体的な計画につながる研修をしているか。	・月２回会議を行い、各クラスの状況を共有したり、研修報告や行事の提案を行うことができた。 ・４月に全職員に園計画を伝えて周知し、園計画に基づいた研修（モンテソーリ教育や虐待など）を行った。
	3　運営・管理・社会的責任 ①　法令等の遵守	○保育所運営管理に必要な法令を理解し、遵守しているか。 ○保育所の子どもの人権が守られているか。	・法令を理解し、運営を行った。 ・「子どもだから」ではなく、一人の人として関わるよう職員に周知した。
	②個人情報の取り扱いと苦情解決の責任	○個人情報について、適切な取り扱いをしているか。 ○苦情解決の仕組みを保護者等に周知する取り組みが行われ、機能しているか。 ○利用者からの苦情・要望に対して迅速に対応しているか。	・緊急連絡カードや児童票などの個人情報は鍵付きの金庫に入れ管理した。 ・苦情解決については、園だよりや重要事項説明書にて周知している。 ・苦情について、担任から園長・主任に必ず報告するよう徹底し、迅速に対応することができた。
	③　施設長の責務	○保育所の保育理念及び基本方針は明文化しているか。 ○保育理念や基本方針は職員、保護者、関係者に周知しているか。 ○保護者や地域に対して、保育を理解してもらうための説明責任を果たしているか。	・保育理念や方針は、園のパンフレットやHP、重要事項説明書に記載している。また、職員や保護者にも周知した。 ・年２回運営委員会を実施し、自治会長に出席して頂き保育の運営を説明した。

		○所内研修を充実させると共に外部研修への参加の機会を確保し、組織として保育の質の向上を図っているか。 ○職務内容や経験に合わせた人材育成をしているか。 ○職員のメンタルケアを日頃から意識して行っているか。	・会社内の研修及び、千葉市の研修にも意欲的に参加し、保育の実践に繋げられるようにした。 ・経験年数の浅い職員に関しては、園長・主任が適宜に研修や面談を行い育成に努めている。また、経験年数3年以上の職員に関しても会社や園の担当を任せキャリアアップの向上に努めることができた。 ・年1回メンタルヘルスの調査を行い、ストレスの高い職員に対して面談や勤務形態を変更し働きやすい環境作りを行った。